第 138 号
2015/01/24 発行

小網代の森と干潟を守る会

小網代 森と干潟つうしん

モリちゃんとガタくん干潟デビュー

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5
代表　高橋 伸和　　E-mail: info@koajiro-higata.com
TEL.046-889-0067（仲澤）
URL: http://www.koairo-higata.com
年会費：一般会員￥1000　賛助会員￥5000（入会金不要 7月～6月）
郵便振替： 00260-4-21569　小網代の森と干潟を守る会

第 123 回自然観察&クリーン

*** 伸さんの念力でカワセミが ***

2014 年 12 月 6 日（土）、森がオープンして最初の探鳥会を行いました。

10 時三崎口駅に集合しバスにて引き橋へ移動。駐車場で今日の予定や注意事項などを説明して出発。水道広場への道でメジロの出迎え。水道広場から木道を下り、イノデ群生予定地でアオジ。本流との出会いでエナガ、メジロ、ウグイスを観察。

少し下ってオオタカ、一瞬だったが全体白かったとのことでオオタカと決定。それ以後、ヤナギテラス前のオギにスズメの群れ。鳥の姿が殆ど見られない。ヒヨドリの声も無く、今日はだめかも、海岸でカワセミが見られればいいけど難しいね、などと悲観的な話をしていると、伸さんが「念力でカワセミをだす。」と一言。これで気持ちを一新して周りに注意しながら海岸へ向け出発。

エノキテラスで昼食をとりイギリス海岸へ。水面にはマガモ、カルガモ、藤が崎にはカワウ、アオサギ、そして水際の木にカワセミ。対岸にシロハラ、イソシギ。上空をチョウゲンボウが横切る。

皆で海岸のごみ拾いをして今日の探鳥会をひとまず終了。その後、有志でガンダのビオトープを観察。ガンダからエノキテラスへの帰り道でガビチョウのおまけ。

最終的に出会った鳥 23 種とまずまずの探鳥会でした。

・参加者：13 人
・出会った鳥：
1)メジロ　2)ヒヨドリ　3)アオジ　4)ツグミ　5)ウグイス　6)エナガ
7)コジュケイ(s)　8)ハシボソガラス　9)オオタカ　10)スズメ　11)トビ
12)カワウ　13)アオサギ　14)コサギ　15)マガモ　16)カルガモ
17)カワセミ　18)チョウゲンボウ　19)ハシブトガラス　20)イソシギ
21)シロハラ　22)モズ(s)　23)ガビチョウ　＊(s)：声のみ
＊順不同

記：別府史朗、写真：鈴木清市

◆ご参加の皆さま、コメントありがとうございます

良いお天気で、カワセミも見られました！ 又、朝早く来てみます。
H様

参加させて頂きありがとうございました。色々勉強になり参考になりました。
S.T様

ゆっくりと小網代の森を歩きました
鳥を探しながら。ゆっくりと
しずかに、話を聞きながら
とても楽しかったです
M.Y様

楽しい一日でした、ありがとうございました。カワセミを見ることが出来てうれしかったです。
T.I様

コナラの木が何本かある中でアオジ、エナガ、ウグイス、メジロなどの混群が見られたのは収穫でした。
K.S 様

随想　小網代てんてん ⑯

冬の風物誌 ― タマバチの虫こぶ

須田漢一

1月上旬。葉の落ちたクヌギの枝で虫こぶ（虫癭）を見た。

クヌギエライガタマバチが生活をした、今は主の居ない空き家だという。茶褐色の丸いこぶは棘状に木質化して、触れると堅く、表面には2ミリほどの穴が開いている。成虫がここから脱け出たらしい。

虫こぶは①昨年の晩秋に雌の成虫がクヌギの花芽に産卵する。②卵を生みつけられた刺激と、孵化した幼虫から出る分泌物で、枝の組織は異常な発育を起こし、こぶが出来る。③成長する実と共にこぶは次第に膨らんで、直径10ミリほどになる。④幼虫はこぶの内壁から削りとった栄養豊富な実を食べて育ち、蛹になる。⑤やがて成虫になると孔から飛び出し、クヌギの枝に産卵する。

実際は世代交代にいくつかのパターンがあるけれど、今はこれくらいしか知らない。

このようにタマバチは、クヌギの新芽が動きはじめる前をねらって、卵を生みつけなければならない。そのために成長期を冬に持ってきたのだ、といわれる。

それにしても、なぜクヌギの枝を選んだのだろう。本能の命じるままに従ったものか。遺伝子のなかに、一連の動作がプログラミングされているのか。クヌギの枝が細胞分裂を起こして、肥厚することを学習していたからだろうか。こぶを作るのは生み付けられた卵から孵った幼虫の食糧確保と、風雨や雪、そして病原菌に侵されるのを防ぐためか、などと想像して見るが、分らない。

人が産業界において何かをつくるとき、一般に研究・実験・試作・テスト・改善・材料の調達・生産設備など各分野にわたる長い時間と、資金、人員が必要になる。その過程からは悪性の排気ガスや、大量の廃棄物が生まれ、環境汚染をまねく。

比べて、タマバチは小さなからだひとつで、このような虫こぶを作り、その中で子どもを育て、次の世代へと生命をつなげていく。そこにできた虫こぶは、自然をほとんど痛めないし、クヌギも枯れない。

冬の雑木林や街路樹、庭木には、いろいろなものがひっついている。ここにある虫こぶを始めとして、木の枝と葉を巻いた蓑虫や、ウスタビガの緑色カプセル、クスサン（別名スカシダワラ）の焦茶ネット、ぎっしり固められたカマキリの卵塊などには、それをつくった昆虫たちのそれぞれの物語りが秘められている。

生きものたちが、草はらや木のまわりや水辺を賑やかに飛んだり跳ねたりする時節だけが喜ばしいのではなく、静謐に見える冬のさ中でも、そのものたちは形を変えて、どこかに潜んでいる。私にはそれが見えていないのかも知れない。

冬の風物詩として裸の枝に残された空っぽの虫こぶ ― それを作ったクヌギエライガタマバチの生活史に、ひとときの思いをこらすこの季節も、捨てたものではないと思った。

2014．1／14、4／5観察

神奈川新聞に「愉しい干潟学」が紹介されました

会員のジポーリン 福島 菜穂子さんと小倉雅實さんの著書「愉しい干潟学」が神奈川新聞に紹介されました。

神奈川新聞　2015年（平成27年）1月18日　日曜日

かながわの本

「愉しい干潟学」

命と干潟のかかわり伝える

ジポーリン福島　菜穂子、小倉　雅實　著

「干潟学」とは聞き慣れない言葉だ。地質学や海洋学など専門分野で区切るのではなく、多様な面から「いのち」を考えることだという。

本書は小さな生物から人間まで、命と干潟とのかかわりを、三浦・小網代の干潟を舞台に分かりやすく解説。その素晴らしさを伝えている。

干潟とは引き潮時に砂泥の湿地が姿を現すところ。小網代では森、干潟、海が近接しているため、絶滅危惧種など400種類以上の多彩な生物が生息。都会の近くにもかかわらず貴重な自然が残る。

魚、カニ、貝、海草などが成育し、鳥の餌になる一方、汚染物質を分解するなど、小さいながらも自然の浄化装置の役割を果たしているという。

また、ヤドカリのエピソードは興味深い。三浦をはじめ、日本各地には江戸時代までヤドカリを焼いたり、塩辛として食べたりしていた文化があったという。昔、干潟に生息するヤドカリと人間が、「食」を通じて密接につながっていたことも述べている。

著者のジポーリン福島菜穂子は文学博士で、東農大准教授。文化の面から干潟を研究中。もう一人の小倉雅實は医師の経験があり、現在は干潟の生物研究に従事。小網代の森と干潟を守る会役員などを務めている。（宙）

（八坂書房☎03・3293・7975、1620円）

*小網代の森と干潟を守る会からも購入していただけます（森の中では販売いたしませんので、ご注意ください）。
口座：郵便振替（00の払込取扱票）　00260-4-21569　小網代の森と干潟を守る会
へ1，620円（送料込み）をお振込ください。お振込料金のご負担をお願いします。また、通信欄には「干潟学」とお書きください。

会員の加藤利彦さんが写真展を開催します

小網代の森で写真を撮り続ける事３０年！
会員の加藤利彦さんが写真展を開催します。季節ごとに表情を変える小網代の森と干潟の四季をご堪能いただけると思います。是非、お出かけ下さい。
会場：横須賀三浦教育会館（横須賀市日の出町３－１９－１６　県立大学下車徒歩１０分　ホームズ前）
日時：３月９日（月）～１３日（金）１０時～１５時

神奈川県を代表する民俗芸能の公演

場所：神奈川県庁本庁舎
日時：2015年3月15日（日）　13時～15時
内容：チャッキラコ（ユネスコ無形文化財と国指定重要無形民俗文化財）他数団体
　　チャッキラコは、小正月の女性だけの行事として江戸時代中期から、現三浦市三崎地区に伝えられてきた。母親や祖母10人位の音頭取りの唄に合わせ、4・5歳から12歳までの少女20名前後が舞扇やチャッキラコと称する小道具を打ち鳴らして踊ります。
問い合せ先：神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課　　電話　045－210－8351
詳細は県ホームページへ掲載予定

森の隅っこで！

２０１４年７月２０日の開放いらい森でであった方々の声を不定期でお届けします。

9月のHさんの記録文の掲載の続き。今回はハンノキ林からエノキテラスまで。

団体では無いから見えるものもあり。茂みの中に大形の姫蕨
メナモミの群落。顔を出し始めた緑色の半夏生
数本あった杉の木。斜面に多い倒木
道端に花の終った彼岸花の茎が二本
処理された沢山の枯れ枝(大変な作業ですね)
作業用の杭や横木を積んであった一角
田畑の名残の茗荷の多い道(段々に増した暑さ)
まだ若いヒラタケがびっしり出ていた枯れ幹
川中や付近に纏まっている石菖の爽やかな緑
ハンノキの姿勢正しい幹。明るくなった空
蟹の住まいを覗いても何も見えなかった斜面
たった一株咲いていた秋の田村草の清楚な花穂
明るい湿地に横倒しの蛇柳(幹から若木がヌンヌン)
暑くて日傘を差す人が多い道に犬ホウズキの白い花
ひらひらと右斜面へ止まった褄黒ヒョウモンの雌蝶
次は、三筋蝶の飛来(三本の白い筋がくっきり)
蛇柳の太い幹(一株でどっしりした貫禄あり)
またもや藤に絡まれメタボ腹みたいになったコナラの幹
糠黍の出始めの柔らかい穂先が木道へ「こんにちは」
蝶が多い日。仲良し黄蝶の舞を邪魔する一文字セセリ
白蝶も軽やかに舞い暫く楽しんだ明るい湿地
葦にも茶紫色っぽい穂が出始め微かな風に靡いて美しい
遠くにネムノキやエゴノキ。道脇には犬タデや露草
斜めに倒れていたヒヨドリ花の白い頭花
幅広く刈られた木道周囲。普通の柿の様な若木
大きな美声の主は画眉鳥(安針塚にも居ましたね)
ボントク蓼と数珠玉。右手に三葉アケビの実ひとつ
紅花ボロギクの綿毛の目立つ茂み
青筋アゲハに止まれ！ と安田さん(本当に止まった)
どこにも目立つピンク花の溝蕎麦(今が最高)
蟹住居、半夏生、丸木橋など見ながら行く木道
じっくり見たガマの根元。素早く飛んだ鬼ヤンマ
蛇柳のあるテラスで白花桜蓼など見て水飲み休憩
荻の豊かな穂。葦やススキとの違いを観察
倒れた幹から再生する蛇柳の逞しい生命力
荻の群落(冬場は白い穂が見事でしょう)
木道へ止まった大塩辛トンボ。塩辛トンボも多い
コガマの可愛い穂(ガマより全体が小形)
花が終わり加減の丁子蓼に赤っぽい実が沢山
生い茂るコナギに僅かに見られた青紫色の花
紅葉を始めた山肌のハゼノキが美しい
溝蕎麦の中にもう赤くなった蛸の足
褄黒ヒョウモンの雄が飛来。ずっと響いている虫の声

2014 年12月 エノキテラスで座っていた男性のリュックに開園記念のかにのキーホルダーがついていた。会員さんがキーホルダーを使ってくれていることに感激！「そうだ、キーホルダーをつけて森に行こう！」…CMでした。

2014 年 12 月、会の会計監査を前年度までやってくださっていたSさんが転勤で金沢に移住されたのだが、そこの健民海浜公園にもアカテガニが生息しているのが分かり、感激! との便りを下さった。三浦に帰った時はまた、お孫さんと森に入る予定とか。また、森の隅っこでお目にかかりたいですね。

2015 年1月、白髭神社に初参り。森の安全を祈った。神社の鳥居の前に綺麗な森の形に中のコースを描いたカラーの案内板が設置されていた。三崎口駅からの看板も同様新しい。新年にあたり、看板も新しくなったのだろうと勝手な判断！

2015 年 1 月、4 時半ごろ、森の上空をカギになり サオになり 数千のカワウの塒いりかと思われる様子を目撃と電話情報あり。昔覚えた「雁が渡る」という歌を思い出した。

宮本美織 記

小網代を詩う

案内板

中井　由実

森の入口の水道広場
そこへくだる坂道の踊り場にあたる一角に
この夏　新しい案内板ができた
なめらかなコンクリートの台に茶色の柱
左を示す濃茶の面に白い字体で
「小網代の森」
それを見て
楽しく森を歩いていたはずの時代に
ある恐れを抱いていたことに気がついた
――　小網代がつぶされてしまったらどうしよう　――
当時この道にあったのは　目には見えない
「私有地　立ち入り禁止」の看板だった
笑いながら、驚きながら、歓声をあげながら
私たちはいつも
森との別れが来ることを恐れていた
いったい誰に思い込まされてきたのだろう
経済は自然が嫌い
発展は緑を厭うべし　などと
巨大なゴミ捨て場にするといわれたこともあったけれど
今　誰の目にも明らかに
小網代の森は小さくて大きな自然として
私たちの前に広がっている
もう大丈夫ですよ
ずっとここにいることになったから、
濃茶の案内板は
そう告げるために建てられたのだ
ずうっとよ、
私のつぶやきは
谷をくだりはじめた人には届かなかっただろうけど

* 第 137 号に掲載した詩の内容に誤りがございました。
作者並びに読者の皆さまにお詫びし、訂正したページを改めて掲載いたします。

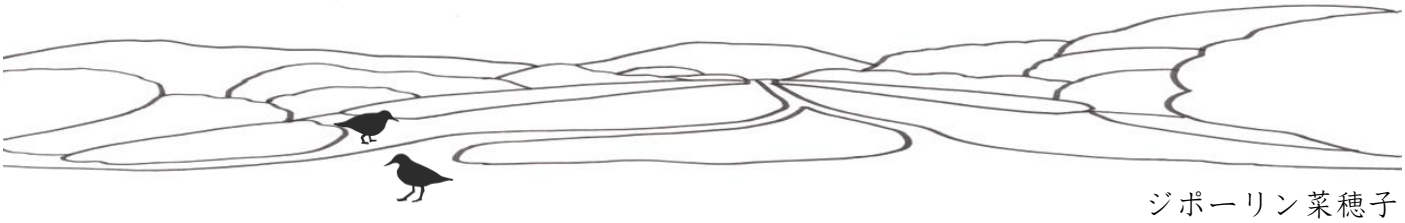
縁あって

中井　由実

おおるり　チゴガニ　山百合
しろばなさくらたで　行灯くらげ
とび　ヤブツバキ　鷺
長く一緒に歩いてきた仲間達ひとりひとりに
森の好きなものを聞いて
細い筆で彩色し、焼いた盃（ゴブレット）が
それぞれに贈られた
こねる度、描く度、焼く度に
共に見た小網代の自然を
思い起こし　思い描き　想い重ね
出来上がった釉のつややかな厚み
今　一人一人の手の中で
変わることのない固有の小網代となって光る
縁あって巡り会った小網代と人
こうして守られた森に
葡萄酒を注いでお祝いしよう

干潟のゆりかごの小さな住人　その１８

シギ歩く干潟の初春



ジポーリン菜穂子

今年のお正月は、少し寒かったですね。みなさま、いかがお過ごしになりましたか。一日（ついたち）が予想外の雪で、メルヘンな始まりでしたね。雪景色で気持ちも新たになりました。あくる日には、外で遊ぶ子どもたちや、親子連れで凧をあげる姿などもちらほら。なんとものどかな風景に、ほっこりとした気持ちになります。まさに、「世の中は、つねにもがもな（いつも、いつまでも、そうあってほしい）」です。これは、小倉百人一首の中の句。京都の貴族さまの歌の中にあって、実はこれ、鎌倉にお住まいだった源実朝公の歌であります。

世の中は つねにもがもな なぎさこぐ
　　あまの小舟の 綱手かなしも

波打ち際で、漁師の小舟が舳先に結った綱を、陸から引いてもらっている様子。これが、実朝公にとっての、平和ですてきな日常風景だったのでしょうね。由比ガ浜や材木座のあたりでしょうか。逗子、小坪のあたりでしょうか。

実朝はお武家育ちで、源頼朝、政子の次男坊。自身も鎌倉幕府の第三代将軍であらせられましたが、京文化がお気に入り。武家で初めての右大臣にもなりました。鴨長明とも親交があったそうですし。歌もお詠みになります。ご自身の家集『金槐和歌集』がありますし、勅撰和歌集にも、百首近く選ばれています。実朝には、和歌の家庭教師がいました。京都の藤原定家です。小倉百人一首の選者と考えられていますね。鎌倉と京都での歌の指導、どうやっていたのでしょう。通信添削でしょうか。行き来も、もちろんあったのでしょうけれど。

お師匠の定家にも、海辺の生活風景の歌があります。

見わたせば　花も紅葉も　なかりけり
　　浦の苫屋の　秋の夕暮れ　定家　　『新古今集』

「苫屋」というのは、屋根に苫を使っているおうち。苫というのは、スゲやカヤなどを乾かして編んだもの。干潟で調達できますね。防水のために舟の屋根にも使われました。「浦の苫屋」は、入り江や漁港そばの漁師さまのお家でしょうか。半農半漁であったかもしれません。もちろん、どなたか都住まいの方の別荘、ということも考えられますが。この句は、「**ない**もの」を詠うことによって、干潟や浜辺の景色を際立たせています。なかなか画期的な歌。千利休ら茶人たちは茶の心を表すものとして絶賛。

小網代集水域ナチュラリストとしても、この歌は、絶賛したいところ。花や紅葉の森から降りてくると、海に出るよ。花も紅葉もないけれど、茅で屋根をふいた家があるよ。花や紅葉のきれいな森があるから、集水域の出口の海もきれいで、魚も捕れるんだね。夕焼けもきれいだよ。という。森と海がつながっていること、そして、つながっているから美しいということを暗示してくれているのでは。この歌は、西行法師の「二見浦（ふたみがうら）百首」に誘われて、作った歌です。二見浦は、三重県伊勢市に広がる海岸。海に囲まれた日本。今、コンクリートで固められず、自然のままの海岸線が残っているのは、どのくらいでしょうか。

この歌は、三夕（さんせき）の歌のひとつ。定家の従兄で戸籍上（？）の兄の寂蓮法師の歌も。*

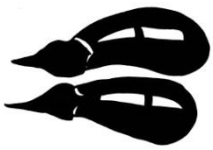
さびしさは　その色としも　なかりけり
　　真木立つ山の　秋の夕暮　　寂蓮　『新古今集』

真木というのは、山の立派な樹木のことだそうです。スギ、ヒノキ、コウヤマキなどではないか、ということです。常緑樹があったって、夕暮れ時の秋の森は、寂しさを感じるのですね。
　もうひとつの三夕の歌は、西行法師。ふたたび海辺にもどってきます。

心なき　身にもあはれは　知られけり
　　鴫（しぎ）立つ沢の　秋の夕暮れ　　西行　『新古今集』

「鴫立つ」というのは、飛び立ったところだと考えられていますね。これは、一羽がすぅっと飛ぶのでしょうか、それとも、ハマシギの群舞のようなものでしょうか。シギ科の多くは旅鳥。世界中の干潟をたどりつつ、旅をします。
　小網代でも、イソシギが見られます。秋になると、アラスカやシベリアからやってきて、しばらくいた後、さらに南をめざすのでしょうか。この渡りのルートなどなどを解明すべく、世界のあらゆるところで、鳥類学者が、シギやチドリに足環をつけ、その後放鳥しています。鳥を捕まえなくてもわかるようにそれぞれの国で色分けをしているそうです。三番瀬などでは、アラスカからやってきたらしいシギが見られるそうですよ。足に環っかをつけたシギを見かけたら、山階鳥類研究所の茂田先生にご連絡！どこからやってきたのだか、教えていただけるかも。研究に一役買うこともできます。
　小網代のイソシギは、たいてい一羽か二羽でいますね。群れをなしているところをご覧になった方はいらっしゃいますか。それから、たいてい、歩いています。立ち止まって、おしりをフリフリしながら、嘴を開いて、リーリリーリと鳴く姿は本当に可愛い。そして、干潟に嘴をリズミカルに突っ込んで、食事をします。水生昆虫や、貝を食べているのでしょうね。これも、森の恩恵です。森がきれいな水域を蓄えているからですね。
　さて、西行の和歌。欧米の人たちにとっては、まずは、「あわれ」を知ることのできる「心なき身」というのが、たいへんな謎です。何しろ身体より精神が、優等で上等だと考える文化の中で過ごしていますから。それでか、どうか。この和歌は、英語にたくさん翻訳されています。「鴫」は、複数形より一匹で訳されていくことがだんぜん多いです。snipe が一番使われています。ほかには、curlew や longbill に woodcock も。ハマシギを表す sandpiper も。また、鴫立沢をシギタツサワという地名で訳されているものもありますよ。しかし、これは、迷訳とも言いきれないのです。と申しますのも、大磯にありますね、鴫立沢。西行が立ち寄ったとされています。国道一号線（旧東海道）沿いです。
「立つ」は、たいていは飛び立つ、離れて行くなどと翻訳されています。文字どおり、立つ(stand) と訳されているものも。
　アメリカの現代挂冠詩人、エリザベス・ビショップ（Elizabeth Bishop 1911-1978）には、「イソシギ（Sandpiper）」と題された詩があります。この詩のイソシギは、とにかく、「走る、走る、走る。」どこを。浜辺を。南に向かって。その走り方といったら、「うろたえてはいない程度に、あわてている controlled panic」のだそう。そして、イソシギは、イギリスの画家、版画家、詩人のウィイアム・ブレイク（1757-1827）の弟子、とビショップの目には映るそうですよ。それから「イソシギ」と言えば、あのエリザベス・テイラーとリチャード・バートンのハリウッド映画。羽根の折れた幼鳥をヒロインが助け、大空に飛び立たせる、というお話でした。** もちろん、恋愛も、映画のお話の大事な要素。音楽の「愛のテーマ」は今でも、巷で流れていますね。

さて、シギとあわれが江戸時代になると、こうです。



菜(さい)もなき膳に　あわれは　しられけり
　　鴫焼き茄子の　秋の夕暮れ***

江戸の狂歌です。たいしたおかずのない秋の夕食にあわれを感じるのです。でも、茄子の鴫焼きですよ。十分ですよねえ。武家の上杉鷹山などは、一汁一菜を提唱していましたし。何が足りないのでしょうか。きっとお造りかな。獲れたばかりの鯵なども、江戸っ子の夕餉の食卓にのぼったそうです。江戸前です。

茄子の鴫焼き。へたがついたままの茄子が、シギに似ているから。ということが名前の由来などと言われていますが。どういうふうに見ればシギに見えるのか。お坊さまたちが、鴫を食べたつもりの茄子。ということかもしれません。実はお豆腐なのに、「雉焼(きじや)き」とか。「雁擬(がんもど)き」だとか。鮒を焼いているけれど「雀焼き」、蛤を焼いた「千鳥焼き」など、ありますね。１６世紀のお武家さまのお料理の本には、茄子をくりぬいて、その中にシギの肉を入れて焼く、茄子の鴫焼きレシピが出ています。室町ジビエ料理ですね。その後、茄子だけになったものの、ゴマ油、そして味噌やお醤油などの調味料を使うことを、鴫焼きと呼ぶようになったのかもしれません。お茄子は、アメリカでも菜食主義者(ベジタリアン)の間でも人気の野菜です。お肉みたいに、しっかり食べた気分になれるかららしいです。私たちも、茄子、大好きですね。何しろ、おヨメさんに食べさせたくない（！？）くらいですから。それから、茄子は縁起が良いと考えていますよね。初夢。

一富士二鷹三なすび

これは、家康公の出身地、駿河（静岡県静岡市あたり。大井川より東）の国の名物だということです。富士はぶじ、鷹は高い、茄子は成す。とまあ、いわゆるオヤジギャクの世界。もちろん、富士山は日本一の山ですし、末広の形は、美しいですし。鷹は賢くて強いですからね。実は、続きもあります。

四扇五煙草六座頭

煙草は、お酒と同じで、お祝いの席には、和みの道具として欠かせなかったそう。座頭は、琵琶法師のこと、あるいは盲人の階級です。剃髪しています。この２行目は１行目に対応しています。富士と扇の形は、末広がり。ますますの繁栄です。鷹も煙草の煙も上に上昇していくので、運気も上昇です。茄子と座頭はどちらも、「毛がない」ケガない。家内安全です！

このような縁起の良い初夢を見るためには、七福神の乗った宝舟の絵を枕の下において寝るとよいと、お正月、お年寄りがよく言っていましたね。繁盛の「恵比寿尊」、富貴の「大黒天」、知恵の神の「毘沙門天」、学問技芸は「弁財天」、福徳の「福禄寿」、長寿の「寿(じゅ)老人」、そして至福の「布袋尊」。「仁王護国般若波羅密経」というお経の「七難即滅　七福即生」という文章に由来するそうです。信心していれば、七難はたち消え、七福がやってくるのです。七福神、とっても日本的って思っていますが、グローバル・ユニットなんですよ、実は。恵比寿さまは神道、これは日本。大黒天は、もとはと言えば、ヒンドゥーの神さま、弁財天も、サラスバティというヒンドゥーの女神さま。毘沙門天はインド神話と仏教、福禄寿に寿(じゅ)老人は、中国は道教の神

毎月第3日曜日にあらわれる七福神！　ありがたーい神様（NPO小網代野外活動支援会議）

さま。寿(じゅ)老人は老子だとも言われています。布袋尊も中国の僧です。インターナショナルな集団です。

小網代の眺望テラスから右に行くと干潟へのアクセス。イギリス海岸とも呼ばれています。そして、左の道をずっと行くと白髭神社にたどりつきます。白髭神社は七福神のなかの寿老人ですよ。本堂の左側にあるのは、有名な「カンカン石」。ベンチではありません。*****　みなさま、本年も良いお年でありますように。

＊　定家のお父様、俊成には、なかなか息子ができませんでした。そこで、甥（寂蓮）を養子にしたのです。その後、定家が誕生しました。寂蓮の百人一首の歌は、「村雨の　露も未だ干ぬ　槇の葉に　霧立ち昇る　秋の夕暮」です。

＊＊　幼鳥を保護するとき、気をつけるのが、インプリンティング（刷り込み）。うっかり人間を、親だと思ってしまうと、後々、鳥としてのアイデンティティを確立できなくなりますから。保護するヒト科は、鳥さんのぬいぐるみをかぶって、お世話をするのです。

＊＊＊　唐衣橘州(からごろもきっしゅう)(1744-1802)の作と考えます。鹿津部真顔(しかつべのまがお)(1753-1829)と考える説もあるようですが。どちらもペンネーム。江戸の文人は、書くものによって、ペンネームを使い分けていました。このペンネーム自体もパロディ。『伊勢物語』の「唐衣 着つつ馴れにし 妻しあれば はるばる来ぬる 旅をしぞ思ふ」の和歌を知っていれば、名前を聞いただけでも大笑い。

＊＊＊＊　三浦七福神は：

妙音時（福禄寿）圓福寺（恵比寿尊）慈雲寺（毘沙門天）海南神社（弁財天）見桃寺（布袋尊）白髭神社（寿老人）延壽寺（大黒天）です。

＊＊＊＊＊　「カンカン石」については『小網代の森の住人たち』（八坂書房 2011）111 頁をご参照下さいませ。

参考にした本など：

樋口広芳他『鳥類』（平凡社 1996）

氏原巨雄他『シギ・チドリ類ハンドブック』（文一総合出版 2004）

永井真人 茂田良光（監修）『鳥くんの比べて識別 野鳥図鑑 670』(文一総合出版 2014)

『江戸狂歌本選集　全１５巻』（東京堂出版　1998_2007）

「武家調味故実」『群書類従 第 19 輯 管弦部 蹴鞠部 鷹部 遊戯部 飲食部』塙保己一　編（続群書類従完成会 1959）

喜田貞吉『福神』(宝文館出版 1990)

宇佐恵介『歩いて巡るー 開運ー 三浦七福神』（妙音寺編集部 2009）

Paul S. Atkins “A Wisp of Snipes: Translating Medieval Japanese Poetry” in *Simply Haiku: A Quarterly Journal of Japanese Short Form Poetry* Autumn 2009, vol7 no 3.

Elizabeth Bishop *The Complete Poems: 1927-1979* (Farrar Straus & Giroux 1984)

「愉しい干潟学」が
サンデー毎日（2014.10.26 号）にも
紹介されました。
ありがとうございます！

SUNDAY LIBRARY

COLUMN

あんの・ひでこ　広告制作、書籍編集を経てライターに。中学高校で国語を教えながら日本文学や日本文化をテーマに執筆

オトナの勉強机

阿武秀子

海辺の砂や泥の中に潜む多彩な「いのち」に触れよう

十月は外で遊ぶのに格好のシーズンだ。海辺を歩くのはどうだろう。

潮が満ちているときには海面の下、潮が引くと干上がって陸地になる干潟の周辺は、生態的環境の多様性という点でも注目される。神奈川・三浦半島の小網代湾の干潟は四ヘクタールほどの広さ。森から干潟、海がつながっているのは他に例がないという。

本の題名の「干潟学」について、あれっと思う向きもあるかもしれない。「はじめに」の冒頭で著者は、専門区分名ではないとはっきり語っている。いろいろな角度、多方面の学問領域から「いのち」を考えていきたいのだと。

干潟を歩くとき私たちは、足に泥や砂の感触をおぼえ、空を仰いで風を感じ、水のにおいを嗅ぐだろう。そして、干潟のさまざまな動植物を知って細部へと分け入りながら、複雑なつながりに気づいていくだろう。この、全身でうけとめるものは、特定の専門領域に収まるものではない。

干潟そのものや、干潟に育まれる「いのち」と関わることが、「干潟学」という言葉に込められているのだと思う。

「愉しい干潟学」
ジボーリン・福島菜穂子、小倉雅實
（八坂書房／1500円）

マテ貝、カニ、アメフラシ、フジツボ、クラゲ、鳥ではアオサギ、桜、葦……。にぎやかな顔ぶれである。

干潟の生き物たちは、古今東西の文学や芸術、たとえば神話や絵画、和歌や俳句などで活躍している。生物にあまりなじみがなくても、学名が並ぶのにピンとこない場合でも、その暮らしぶりや世界各地の人びとの生活との関係が見えてきて、親しみがわく。著者の豊富な知識によるのはもちろんだが、独特の連想の妙も縦横に生かされている。

脱皮を重ねたヤドカリが住まいの貝殻を見つけ、大きくなると「リハウス」。ボストンの水族館の研究員が名づけたヤドカリSNSでは、大きいヤドカリから順に引っ越しをするのだとか。人が海辺で貝殻を拾いすぎるとヤドカリが住宅難になるのでご注意を。

ややマニアックなツメタガイのことを本書で思い出した。この巻貝はアサリなど他の貝を食べる肉食性だ。

小学生の頃、私がどこかの海岸で拾ったのがツメタガイ。図鑑を見ていて、二枚貝のちょうつがいの近くに穴があいているのがツメタガイの食事の痕跡だと知った。夏休みの終わりにようやく仕上げた自由研究だった。

干潟の砂や泥の下にたくさんの生き物が隠れてるみたいに、知る「愉しさ」も埋まっているようだ。

スタッフコラム

◆ 世界最大の花　ショクダイオオコンニャク

世界最大の花といわれる、ショクダイオオコンニャクが開花したという新聞報道があった。東京大学理学系研究科付属植物園、通称小石川植物園（東京都文京区）では平成22（2010）年7月23日朝から、その巨大な花を見ようと来園者が殺到したと伝えられた。普段は静かな園内は押すな押すなの大盛況で、道路も渋滞し警察から対応を求められ同園は、午前10時30分頃には入場券の発売を取止めとしたといわれる。

開花期間は2日程度、私たちは長時間の待ち合わせを覚悟して24日早朝出かけることにした。開園を朝7時、入園者を1万人に限度として対応する。園内では3時間待ち、暑い日差しを避けるため屋外の列にはヨシズを張ってくれた。

近寄ることはできなかったので、その臭い花の香りは確認できなかった。

赤道直下のインドネシアは世界最大のイスラム国、スマトラ島は世界第6位の面積（本州の2倍）、絶滅危惧種であるショクダイオオコンニャク（別名スマトラオオコンニャク）が小石川植物園で開花の見込みになったので、この機会に大勢の人たちへ見てもらうために、大鉢を温室から屋外に出して展示公開することにしたのである。

スマトラトラ（虎）が生息するスマトラ島、標高0～1200メートルの若い2次林の開けた、熱帯雨林の林床に分布し纏まって生えるといわれる。茎は地下にあり、栄養を貯蔵して球状に肥大した地下茎（イモ）は最大80キロにもなる。開いた仏炎包1・3メートル、花序は最大3メートル、葉は6メートルに育つという想像を超えた大きさへと成長する。臭い匂いを放ち、それにつられてハエやシデムシ等の仲間たちが飛来して受粉をさせる。

臭い匂いの花といえば、高山植物のクロユリや湿地に生えるザゼンソウを見ている。また、秋の七草で姿がやさしいので女郎花と書くオミナエシ。美しいのに臭かった記憶がある。樹木では、文字どおり臭木（くさき）。

記録によると当園の他、フラワーパーク鹿児島、東京都夢の島熱帯植物園等でも開花が確認され我が国では6例目といわれる。後に、新聞報道によると2014年9月4日、国立科学博物館筑波実験植物園（茨城県つくば市）でまた開花。花の高さ2．7メートル、国内開花10例目では最大といわれた。

◎　スマトラトラは横浜市ズーラシア動物園で見ることができる。

2014．12.29　　祖父川精治

～いちご川氾濫か！？～

ジポーリン周樞

カリフォルニアは、沙漠のような気候で、すごく乾いています。あちこちで、「水を大切にね」という注意書きをよく目にします。ですから、雨が降ると、みんなは不便を承知で喜びます。しかし、雨は、降るとなると、すごく降ります。去年は１２月１０日から、ものすごい豪雨が一週間続きました。いつも通学で見ているイチゴ川も水があふれそうなくらい水位が上がっていました。

サンフランシスコでは、ボロボロで使えなくなってしまった堤防もありました。でも、そもそも「堤防」というのは、とても古い考え方ということになっています。人類が考えて人工的に作ったものは、やっぱり自然災害には役立たないのですね。自然災害を防ぐのは、なんといっても自然環境そのものにそって生きていくことが大事なのですね。

最初、世界大戦までは、堤防は、湾岸に泥をかためているだけでした。そして５０～７０年代の間に、あっという間にコンクリートに代わりました。どろどろわさわさだった流域の岸もすっきりとコンクリート仕立てになってしまいました。高速道路の建設もすすみ、すっきりしたコンクリートは、その当時、未来的で、人気だったらしいです。

しかし、欠点にも気づき始めました。コンクリートだとメインテナンスが大変です。だめになってきたコンクリートを、常に、そしてこまめにとりかえなければいけません。それに、実は、コンクリートでは洪水を止めることはできないということも、わかってきたのです。洪水の水は動いているものですから、固い物で強引に止めようとしても無理があります。これは東洋思想そのものですね。結局は固い石でも、柔らかい水には勝てないのですね。あと、なんといっても、環境破壊っていうことも事実です。経済面で考えても、お金をかけたって、コンクリートだと、かけた分を回収できません。

そんなわけで「サステイナブル」な装置、つまり自然環境の「レジリアンシー」を利用しようというのが、今の考え方だそうです。それは、水が流れていくような支流を作ったり、河川敷みたいなもので、川岸に段差をつけたりというような工夫です。河川敷のような場所は、人間の遊ぶ場所になったり、農地になったり、生きものが繁殖しやすくなったりして、結局は、お金がかかっても、もとがとれるってことらしいです。いわば、ナチュラル洪水コントロールシステムです。ベイ・エリアでは、このような場所がどんどん増えています。コンクリート崇拝から抜け出しつつあるのです。

小網代の森と干潟を守る会の活動

12/06　第 123 回自然観察＆クリーン（鳥の観察）

12/06　スタッフ会（於：三浦海岸駅ヨコサンの 2 階）

2015/01/12　スタッフ会（於：髭じいの栖）

01/12　森の歩き初め＆クリーン

第 124 回自然観察&クリーンのお知らせ

◆小網代の早春 磯の海藻と生きもの

小網代の漁港では毎年2月にはワカメを干す風景が、また三浦半島の多くの漁港では4月ころにヒジキを干す風景も見られます。
早春の1月、2月頃は、一年を通して海水温が一番低くなります。
海藻が一番元気な2月、3月頃は海藻とそこに棲む小さな生き物に出会えます。

日　　時 :2 月 21 日（土）
集　　合 : 10:00 京浜急行三崎口駅改札前(トイレがありませんので必ず駅で済ませてください)
解　　散 : 14:00 ころ 現地解散
参 加 費 : 無 料
講　　師 : 小倉雅實氏
申し込み : 当日現地で受け付けします
持 ち 物 : 長靴、軍手、お弁当、飲み物、雨具、あれば図鑑など、
小さなお子様は着替えもあると安心です。
*暖かい服装でご参加ください
*小網代の岩場はすべりやすいので、軍手などを用意してください
お問合せ : 046-889-0067(仲澤)

トラスト緑地保全支援会員のおすすめ

◆トラスト緑地保全支援会員になるには

トラスト財団のパンフレットにある申込書に記入して郵送します。またはトラスト財団のホームページ(http://ktm.or.jp)から、申し込むことができます。支援したい緑地にはぜひ「小網代の森」をお選びください。
通常のトラスト会費(大人 2000 円、中高生 1000 円、小学生 500 円、家族会員 3000 円)の他に3000 円の支援会員会費が必要です。 小網代の森をよろしくお願いします。

新入会員募集のお知らせ

小網代の森と干潟を守る会への入会を希望される方は、下記の口座に年間会費をお振込みください。その際、 通信欄に 「入会希望」とお書き下さい。入会金は不要です。
年間会費(2013 年 7 月～2014 年 6 月)は、通常の会員は 1,000 円、賛助会員は 5,000 円で、いずれも振替料金のご負担をお願いしております。
口座: 郵便振替(00 の払込取扱票) 00260-4-21569 小網代の森と干潟を守る会
* 小網代の森と干潟を守る会の入会は随時受け付けておりますが、会員年度は 7 月から翌年の 6 月末までとなります。中途入会の方には会報「小網代 森と干潟つうしん」のバックナンバーをお送りします。またメールアドレスをお書きいただいた方には会員専用ページの ID とパスワードをお知らせします。

小網代 森と干潟つうしん　NO.138　2015 年 1 月 24 日発行
森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5
代表 高橋 伸和　E-mail: info@koajiro-higata.com
電話 046-889-0067(副代表 仲澤)
URL: http://www.koajiro-higata.com
年会費: 一般会員¥1000 賛助会員¥5000(7 月～6 月 入会金不要)
郵便振替 口座 00260-4-21569　加入者名 小網代の森と干潟を守る会
＊ 既に退会のご連絡をいただいた方にも年度末(6 月末)までお届けしております